

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



神戸の街にたたずむ摩耶分教会

(4月14日 撮影)

立教179年
4月号

広島平和記念公園での

にをいかけ実施

海外部



広島平和公園にて

私達海外部は、毎年広島平和記念公園にて、海外の方々に、にをいかけをさせて頂いております。この度は去る3月17日に、7人で活動に当たらせて頂き、内1人は高校生で、次世代を担う者の活躍に皆の喜びも一入であり、互いに勇ませて頂く事が出来ました。私自身、参加させて頂くのも、海外の方に、にをいかけをさせて頂くのも初めての経験であり、不安と期待の入り交じった気持ちで臨ませて頂きました

た。

当日は快晴で、絶好のにをいかけ日和になりましたが、皆様も記憶に新しいと思いますが、その日は八本松トンネルの追突事故という痛ましい事故が起き、その影響による渋滞に巻き込まれ、普段より広島への到着が遅れてしまい、活動時間も短いものとなりました。しかしながら、例え短い時間であっても神様の御用をさせて頂いている、教祖が側で見守って下さっていると、出来る限りの事をさせて頂けた事は誠に良い経験となりました。

公園に着きますと、幼稚園の遠足の子供達、学生、散歩や観光の方々と賑わっており、この度の目的である海外の方も大勢でした。その場で私達は、まず始めにおちばの方角を向き、よろぶよ八首を勤めさせて頂きました。高校生の子も最初は嫌がっておりましたが、恥ずかしがりながらも一緒につとめてくれ、有難いな、凄いなと思わせて頂きました。今となれば出来る事であつても、私が彼位の年齢であつた頃には、何か理由を付けて絶対にしていなかったであろう事をしてくれる。このような先が楽しみな頼もしい子が、様々な活動を通して彼だけでなく沢山

現れてきているのを目の当たりにして、喜び、励みにさせて頂いております。

その後、原爆資料館の通称で知られる「広島平和記念資料館」の見学をさせて頂きました。皆様もご存知の通り、館内には当時の凄惨な有様を克明に伝える展示物が並んでおり、見学に来ている方々、日本人も外国人も、皆一様に悲痛の面持ちで、中には涙を流しながら、しかし目を背けてはならないと確りと現実を受け止めつつ回られていると、見受けられる方もいました。私も小学生の頃に一度、学校行事で見学させて頂いたことがあつたきりで、大人になり改めて訪れ、このような事は二度と繰り返してはならない、その為にも全世界が親神様の望まれる陽気ぐらし世界へと一刻も早くなるように、教祖の道具衆である私達が、この道を確りと通り、教えを伝え広めなければならぬと、決意を新たにさせて頂きました。

資料館見学後、先述の思いのままに、英語と中国語で書かれた天理教のパンフレットを海外の方々に声を掛けて配布させて頂きました。今回は、アメリカ・アルゼンチン・イギリス・イタリア・

エクアドル・オーストラリア・コスタリカ・スペイン・デンマーク・ドイツ・ノルウェー・フランス・ブラジルの13カ国の40人程に配らせて頂きました。話しかける事さえ出来れば、どこの国の方々も足を止めて、パンフレットを快く受け取って下さいました。私達のものである事は本当に微力な事かもしれませんが、しかし動かなければ何も変わりませんし、少しでも心を掴むものがあれば、それがいずれ大きな動きになっていく事もあると私は信じています。例え会話がままならなくても、私達のこの道の教えに触れて頂き、興味を持ち、更にはおちばに帰って頂く事へと繋がれば、それはこの上ない喜びであります。

今後とも、私達海外部はこの活動を継続し、また新たな活動も視野に入れて取り組ませて頂いております。もし、関心や興味のある方がいらつしやいましたら、是非一緒に勇み合いながら通らせて頂きたいと思えます。世界いちれつが、喜びいっぱいのお姿をお見せ頂けるよう、今後とも道の御用の上に邁進させて頂きますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

(海外部員 岡崎 治 喜)

よふぼく勉強会開催
テーマは「年祭が済んだら次へ進もう」
 3月月次祭後
育成部

育成部(吉岡壽部長)では、3月21日祭典終了後、午後1時15分から2時まで「よふぼく勉強会」を開催、約20人が参加した。

「年祭が済んだら次へ進もう」をテーマに講師の上原繁道先生は、教祖百三十年祭に向け定めた心を、これからは新たな出発点として、継続してやらせてもらう事の大切さを強調され、その後、かなめ会で表統領が発表された「一、にをいがけ・おたすけ活動の定着化。一、道の将来を担う人材の育成。一、教会長家族のたんせい」について笠岡大教会の現状にも触れられ厳しく振り返られた。そして、これから教祖百四十年祭を迎えられるかどうかは、これからの私達の通り方にあると述べられ、今、私達に必要な事は教祖伝・逸話篇をひもといて、この時旬に教祖が当時の人をどのように導かれたのかを学び、この一年に教祖のひながたを自身の心に照らし合わせて通る事が責



教祖百四十年祭に向かって

務であると締めくくられた。

「テッチャンシアター」開催
 3月月次祭後
少年会

3月21日、大教会月次祭後、少年会『テッチャンシアター』が、開催された。この日は振替休日とあつて、多くの少年会員が参加した。

今回の内容は、〇×クイズ。「今年の子どもおどろばがえり開催期間は、例年より1日長い？」など、少年会活動や、おやさまに関連する問題5問が出



クイズに答える少年会員

題された。子どもたちはクイズを楽しみながらも、会活動のかどめに触れた。

全委員長を集めて研修会を開催
 3月22・23日
婦人会

▼委員・直轄委員長研修会
 3月22日、霊祭の午後より開催しま



グループに分かれて行われたワークショップ

した。例年は2月に行われますが、今年には年祭後の婦人会本部の方針を待って、支部長様からお話を聞かせて頂きました。

そしてその後にそのお話に基づいたねりあいをしました。参加者34人。

▼全委員長講習会

翌23日に101人の参加者で行いました。初めに、支部長様が大教会長様の御身上に關しての経過報告と提案について、また、笠岡に繋がる皆が身上の回復を真実込めて祈って下さったことに対してのお礼の言葉を述べられました。



決意の十二下りてをどり

た。
次に、委員部長という立場については、親神様から特に期待されている人で単に自分が教えを信じているだけではなく、まわりの人々に匂いをかけ育てる立場の人であり、その行動の指針となるのが婦人会の活動方針であると述べられ、会員の育てを促されました。続いて、大教会役員・上原志郎先生からおさづけについての講話がありました。『さあ おさづけ』の冊子を基に、その歴史から取り次ぎ方まで詳しく説明されました。そして、おさづけは「存

命残したる」と云われ教祖の形見ともいえるので、取り次ぐ人の魂に教祖が刻印を押して下さり、来世に繋がるものであり、取り次がれた人も魂が救われていると締めくくられました。
午後はグループに分かれてのワークショップ(話し合いながらの作業で、それぞれのグループが特色を出して作品を創りました。いずれ掲示して皆さんにご覧頂けたらと思っています。
講習会の仕上げに神殿で十二下りの総立ち手をどりをつとめ、今後の勇みの種にしました。
(常任委員・記録係 上原 順子)

笠岡むつみ鼓笛隊
春季合同合宿
3・30〜4・1
少年会

命残したる」と云われ教祖の形見ともいえるので、取り次ぐ人の魂に教祖が刻印を押して下さり、来世に繋がるものであり、取り次がれた人も魂が救われていると締めくくられました。
午後はグループに分かれてのワークショップ(話し合いながらの作業で、それぞれのグループが特色を出して作品を創りました。いずれ掲示して皆さんにご覧頂けたらと思っています。
講習会の仕上げに神殿で十二下りの総立ち手をどりをつとめ、今後の勇みの種にしました。
(常任委員・記録係 上原 順子)

笠岡むつみ鼓笛隊では、3月30日から4月1日までの2泊3日間、大教会に於いて、本隊、福山隊、高屋隊、島根隊、各隊より隊員や係員、ひのきしんの方々、総勢約100名で、春季合同合宿を行わせて頂きました。
昼間は、パート練習や合奏、マーチ

おつとめまなび総会
開催
4・1 大教会
少年会

ング練習、夜は室内オリンピックやおつとめ練習等とても充実した合宿で、少年会員も大変楽しんでくれたと思います。
各教会においても、鼓笛をしている子供たちは、目的をもって教会に足を運び、少年会活動にとっても慣れ親しみ、リーダー的な存在となつてきています。
更に、おつとめの出来る子を育てようと、係員一同精一杯つとめておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。
(少年会副団長 森本 忠 善)

4月1日、小雨が降る中、春の少年会恒例行事「おつとめまなび総会」(少年会員259人、育成会員約202人、総数461人、受付を通った方以外は、カウントせず)を今年も賑やかに開催させて頂きました。この度は、大教会長様がご身上となられ、退院されてすぐの総会でした。人前に立たれるのは初めての中でのご挨拶、上手に話すことができると、係員一同精一杯つとめておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。
午後からのアトラクションでは、新メニューに「肉まん」が加わり、さらに満腹度が上がりました。福引きも多くの方に景品が届くよう、趣向をこら



おつとめまなび総会参加者達

して楽しんで頂きました。

少年会笠岡団では、おつとめに参加出来ない少年会員、育成会員の方々にも広く参加頂き、大教会で楽しんで頂くことを期待しています。お陰をもちまして毎年、多くの参加者で賑わい、



お元気に挨拶下さる育成会長様

最後まで楽しんでくださっておられるように感じます。少年会員の皆様に、楽しい中にも信仰の一部をお伝え出来るよう、これからも努力させて頂きますので、どうぞ多くの方の参拝を心よりお願い致します。

(少年会副団長 藤井正仁)

談話室



診察室で

福満分教会 福島悦子

教祖百三十祭に参拝した翌々日痛くも痒くもないのに、嫁が、病院へ行け、というので行った。

診察室で院長先生に、「異状はないのですが来ました」と、

院長「天理へ行ったね、何だったの？」
天理へ参拝したこと、嫁から聞いて知っていた。嫁はこの看護師だから。

私「天理教教祖百三十祭でした。身をかくされてから、一月二十六日は、百三十年目でした」。

院長「教祖があるの」

私「あります」、院長「名前は」、私「中山みきさま」です。

院長「みき、女」、みきと平仮名で書いて○で囲んで訊かれた。

私「女性です」、院長「何を教える

の」、私「陽気ぐらしです」、院長「陽気ぐらしね」と復唱された、

院長「寒かったろう」と、ジェスチ

ヤー。

私「いいえ、沢山着込んでいったので」、院長「どこに泊まったの、ホテル」、私「話所と云う信者の、修養、宿泊施設があるのです」。私「先生が、天理をご存知ないとは驚きました」。

「びっくりぽん」と軽々云えなかった。

院長「知らなかったね」と云いながら、宗教名を次々書き並べ、みな知らない、と云われ

真言宗「これは空海だね、本山は高野山だ」。

私「真言宗は、知っています、元は真言宗でしたから」。

院長「天理へ参って治ったね、今から、注射しようと思っていたが、その必要ないね」と笑われた。

院長先生は、すべて筆談して下さるので、コミニケーションがとれる、医者によつては、看護師に必要なことを書かせる。院長先生は、看護師もそばにおかず、自分で書いて下さるのでありがたい。

博学である先生が、天理教の、ての字もご存知ないとは、意外だった。

二十万人の人が集まったおちばにいると日本中、天理教の信者かのように、錯覚する。

まさか、院長先生から、天理教の質問をうけるとは、思いもしなかった。

「おやさま」とか、「月日のやしろにおわします」、と云い出しても埒がわからない、ドアの外には、患者さんが待っている。

まぬけで、とちる私が、臆せず答えられたことが、うれしくて楽しかった。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてしまったので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽4月3日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

・園児らが一斉に吹くシャボン玉

きらきら春の光にとける

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

畑の土掘り起こしたれば

ジョウビタキすぐ側そばに来て

土をほじくる

▽4月10日付「時報俳壇」

・芦品◎ 金谷眞佐代さん

喜びの花冷えの街手配りす

▼表紙写真

(杉原博之かさおか編集掛主任)

三 月 月 次 祭 祭 文

此の笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に 会長代理 上原繁道 慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心から陽気ぐらしができるように天然自然の御守護を下さり 分けても今は三寒四温の中寒さも和らぎ時折の風に暖かみを感じるこの頃で御座います 私たちは報恩感謝の心から日々朝夕に御礼申し上げ成人の歩み怠ることなく にをいがけおたすけに またたすけ一条の教会御用の上につとめ励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し戴いた御祭日で御座いますので 只今から 心勇んで坐りづとめ手をどりを勤めて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日一日を楽しみに集いました数多の者心揃えて おつとめ奉仕人に声を合わせて陽気に唱和させて頂き 尚もの御守護願う様をも御覧下さいまして 親神様にも御勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭を二月二十六日に終え 成人への新しい出発点に立たせて頂き 一月の直轄教会大祭参拝に続き二月三月と部内巡教を行い 「にをいがけ・おたすけの定着化」「信仰の後継者・人材の育成」等の今年の活動の角目の主旨徹底を笠岡部内全体に図らせて頂きました そして私たちはいよいよ新しい旬の中にも実動の時を迎え まず今月末の一万大学生おぢばがえり大会 また鼓笛講習会につづいての少年会おつとめまなび総会に取り組ませて頂きます 更には四月には新年度を迎え 例年の如く全教一斉ひのきしんデー 七月末からのこどもおぢばがえり また大教会の別席ひのきしん団参 若人の集い 九月末の全教一斉にをいがけデーなどが予定されておりますが 今年には教祖年祭の年として 旬旬に与えられる行事を信仰の後継者・人材の育成の場と思索し 教祖がその御ひながたにお示し下さった数々の修理丹精の姿を心に味わわせて頂きながら 一步一步確実に 私たちの周りの人々と共に歩ませて頂く所存でございます 何卒親神様には私たちの 旬に勇むその喜び心をお受けとり下さいまして なおもの自由のご守護を賜りますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

春 季 霊 祭 祭 文

此の笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に笠岡の道を築いて下さった役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長代理上原繁道 慎んで申し上げます

祖霊様方には教祖を通して親神様の真実の御心とお働きを知り かしものかりものの喜びと感謝の心から御恩報じの道をお通り下さいました 今日此の笠岡大教会の理に繋がる者が結構な姿をお見せ頂いておりますのは 祖霊様方の真実誠の心を親神様教祖にお受け取り頂いた賜物と 私たちは日々朝に夕に御礼申し上げます 分けても本日は春の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に海川山野の物を供えて只今はおつとめ奉仕人 代表の部内教会長一同勇んで てをどりをつとめさせて頂きました 祖霊様方には御前に寄り集い 在りし日の面影を偲び御遺徳を称える皆の真実の様を御覧下さいまして御心をお安め下さいますようお願い申し上げます

さて私たちは教祖年祭をこの一月につとめ終えさせて頂き 今年には教祖年祭の年として 既に直轄教会大祭参拝に続き二月三月と部内教会巡教をさせて頂き にをいがけおたすけの定着 信仰の後継者・人材の育成 おぢばがえりの促進など今年の活動の角目の徹底を図らせて頂きました 今年にはこれらの角目を心に新しい次の塚へ向けて 旬旬に開催頂く行事に勇んで取り組み 実動に邁進させて頂く所存で御座います 何卒祖霊様方には御心穏やかに私たちのたすけ一条に勇んだ姿をお見守り下さいまして 日々の道の上に 尚もの自由の御守護を賜りますようお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十九年 三月月次祭 祭典役割表

控	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割 区分		講話	扨者		祭主			
													坐り勤	前 半		後 半	指 図 方		賛 者		
上原繁次	今川佐智子	佐藤香苗	虫明好美	中村義太郎	横山逸郎	笹尾正治	谷内伸自	田中隆之	上原浩	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡久善	岡本久善	上原繁道	武内清明	岡崎真一	中村邦義	三島涉	杉原博之	上原繁道
	門脇加津	谷内美知子	武内正美	赤木素志	岡崎真一	山野弘実	高木昭祥	横山逸郎	浅野明教	森本富美子	内海安子	上原順子	中村道徳	杉原博之	中村剛	吉岡誠一郎	三島涉	上原繁道			
	吉岡八恵	岡崎和美	笹尾一美	佐藤真孝	虫明立生	渡邊隆夫	森本忠善	田林久嗣	内海史郎	室悦子	横山小智榮	岡崎豊彦	今川昌彦	門脇元教	中村邦義	山田敏教	上原志郎	吉岡壽	吉岡壽	田林久嗣	山田敏教

五月講話
縦の伝道講習会

立教百七十九年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割 区分		講話	扨者		祭主			
												前 半	後 半		指 図 方	賛 者				
今川佐智子	森本富美子	佐藤香苗	上原繁次	高木昭祥	中村道徳	門脇元教	田中隆之	山野弘実	門脇加津	上原順子	大教会奥様	中村邦義	中村剛	上原繁道	吉岡誠一郎	上原志郎	吉岡壽	今川昌彦	岡崎真一	上原繁道
宮本正子	小川洋子	藤本イヅエ	津森朋之	岡田誠	猪原啓文	平盛秀年	岡崎治喜	原公彦	高木孝子	岡崎豊子	武内正美	藤本芳久	渡邊孝信	矢田哲一	内海史郎	香取雅人	北川治史			

指図方
吉岡壽

賛者
上原繁次
上原浩

第902期修養科募集要項

***修養科期間**

立教179年6月1日～8月27日

***教 養 掛**

3ヶ月間 森 本 忠 善 (大教会準役員・海松ヶ岡分教会長)
 1ヶ月目 吉 岡 貞 彦 (芦田川分教会長)
 2ヶ月目 三 阪 泰 人 (福 岩 分教会長)
 3ヶ月目 岡 田 誠 (備 中 分教会長)

***募集要項**

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日午前10時に解散。

***教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』。

***参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

***携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

***服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
大教会 御供	○		
「住民票」		○	



今年の教祖130年祭に自分の所属する教会から一人でも多く参拝してもらおうと私たち夫婦は、普段なかなか行ってももらえない信者さんに日々から意識して心掛けていました。年祭前の最初の頃は、参拝に行かれないと言われていました。その方の奥さんも「お父さんは一度行かない。というテコでも動かないから、無理だと思う。」と言われていました。その方は普段はすごく真面目で時間も規則正しくされている方なので、始めに僕たちも大方無理だと思っていました。それでも何とか参拝してもらいたいと思い、顔を見かけた時や、自分の時間が空いている時に少しでも信者さんのお宅に伺って本人さんと話しをさせてもらって「ご存じだと思いますが、年祭は十年に一度しかないし次の年祭には行けるかどうか分からないから、是非一緒に行きましよう！僕達も親身にお世話取りさせてもらいますから。」と何回も伝えました。それでも何度も断られました。僕達の熱意が伝わって年祭間際の去年の年末に「年祭に行かせてもらおう事にした。」と返事があり、この教祖130年祭には教会家族と信者さん夫婦ともう一人の信者さんが参拝して下さいました。その事を通じて思った事は、今年も年祭期間なので、終着点ではなく新たに再スタートと思って、これから努力して頑張っていくと思っています。(う)

昭和53年 (1978年) 立教141年	昭和52年 (1977年) 立教140年	昭和52年 (1977年) 立教140年
<p>1. 7 真柱様から母屋ふしんお許し戴き第八十三母屋と命名頂く</p> <p>1. 8 大教会史編纂常任委員会(この年二十回開く)</p> <p>1. 19 ふしん常任委員会(この年十六回開く)</p> <p>1. 27 おやさとやかた西左第五棟着工</p> <p>2. 19 井筒ふみ子芦津大教会奥様を迎え女子青年大会挙行(二一〇人参加)</p> <p>2. 21 小鼓研修会(四一人参加)</p> <p>2. 26 弥高山分教会五代会長平井 年任命(四代会会長平井正雄出直)</p>	<p>11. 26 福山分教会建築模様替及附属建物増築</p> <p>11. 26 福備分教会附属建物増築</p> <p>11. 26 坪生分教会四代会長掛谷富子任命(三代会長掛谷亘 昭和五十二年七月十四日出直)</p> <p>11. 30 立教百四十年布教実修会終了</p> <p>この年は玉島分教会が大教会に陞級した。笠岡にとつては初めての分離大教会である。全教的な行事であるが、大教会でも教会長配偶者、布教所長などを対象に次々と布教実修会が開催、九月からは全部内教会を対象に布教推進要員を派遣しての布教実修会開催が始まった。こうして教祖百年祭に向かって布教力の涵養が行われていくこととなる。</p> <p>この年の大教会年間統計 初席者三百九十九人 おさげの理拝戴者三百二十三人 修養科修了者百四十五人 教人登録七十七人 教人総数二千六百九十人 よふぼく総数六千六百六十人。全教よふぼく総数九十七市万四千五人。</p>	<p>7. 26 善和分教会恒例祭日変更(毎月十一日、十三日)</p> <p>8. 6 第十九回夏季英語講習会開催(七日まで 一一〇人参加)</p> <p>8. 22 こかん様につぐ会開催(三日まで 八〇人参加)</p> <p>8. 26 玉島分教会 玉島大教会に陞級 陸級奉告祭 十一月一日</p> <p>8. 26 大江橋分教会臨時祭典変更</p> <p>鎮座祭：十二月三日</p> <p>奉告祭：十二月四日</p> <p>9. 9 部内教会単位での布教実修会始まる</p> <p>9. 24 婦人会委員部長研修会開催(二十五日まで 一三〇人余)</p> <p>10. 20 ふしん常任委員会(母屋ふしん この年三回開く)</p> <p>10. 21 大教会役員任命</p> <p>10. 21 准承事 笹尾孝夫 三代 昌 豊田道人 吉岡智三</p> <p>10. 21 大教会史編纂常任委員会(この年五回開く)</p> <p>10. 26 海松ヶ岡分教会四代会長森本忠平任命(三代会長森本浪江辞任)</p> <p>就任奉告祭 十一月十六日</p> <p>11. 1 大教会長夫妻 玉島大教会陸級並神殿移転建築落成奉告祭に臨席</p> <p>11. 9 大教会准承事小寺正一出直(七七歳)</p> <p>11. 22 おてふり研修会開催(四〇人受講)</p> <p>設立場所：岡山県倉敷市玉島一丁目十二番八号</p>